

地球環境パートナーシッププラザ 20周年に向けて①

1992年リオ・サミットで、さまざまな主体の参加とパートナーシップ促進による課題解決、持続可能な社会づくりの重要性が確認されたことを受け、96年10月に環境庁（当時）と国連大学が発足した地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）は、来年で20年を迎える。

97年に気候変動COP3が京都で開催され、国内では98年に特定非営利活動促進法も制定された。地球環境問題への関心の高まりと、市民活動の基盤が整備されたことで、設立したばかりのGEOCも環境NPOへの広報や活動支援機能を加速度的に充実させていくことになる。

2000年代に入り、北海道洞爺湖サミット（2008）のように環境に特化しない国際会議で地球規模の環境問題が議論されたり、国内ではクール・ビズ（2004）が提唱されるなど、環境活動は一部の企業やNPOの取組みから身近な暮らしのエコ活動に広がった。問題認識だけでなく、課題解決能力を備えた人材を育成する視点から、ヨハネスブルク・サミット（2002）で、日本から「国連持続可能な開発のための教育の10年（UNDES）」が提案されたのも同時期だ。

地方行政の取組みの中にも目を見張る動きがあった。アジェンダ21（リオ・サミット）を受け、地域でパートナーシップを形成するローカルアジェンダを策定したり、協働に関する条例を策定する自治体が増え、パートナーシップへの理解や制度が少しずつ整えられた。そして環境保全活

動・環境教育推進法の公布（2003）を契機に、地域の課題解決や特長を生かした取組みを行っている市民セクターを支援する地方環境パートナーシップオフィス（EPO）も整備。地域の「つなぎ」役としての活動を開始した。

2011年の東日本大震災に伴う原子力発電所停止を契機とした節電意識の高まりが、日本社会にエネルギー源への課題意識を定着させる一方、世界的な地球温暖化の進行や生物種の減少など、依然として環境問題は深刻化している。GEOCやEPOには、今までの「つなぐ」役割だけでなくパートナーシップに関するモデル事業を実施するなど、パートナーシップの加速につながる新しい取組みの提案が求められるだろう。ぜひ来年のGEOC20周年は、これまでの成果と課題を振り返りつつ、社会状況を予測し、GEOCの役割を確認する機会としたい。

（文：一般社団法人環境パートナーシップ会議 事務局次長 平田裕之）



2002年秋
「つな環創環号」発行

【つな環】第26号

2015年10月発行

編集・発行：

地球環境パートナーシッププラザ

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学1F
Tel.03-3407-8107 Fax.03-3407-8164
<http://www.geoc.jp/>

●開館時間 午前10時～午後6時（火～金曜）
セミナー開催時は午後9時まで
午前10時～午後5時（土曜）

●休館 日曜・月曜・祝日・年末年始

環境パートナーシップオフィス（EPO）

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F
Tel.03-3406-5180 Fax.03-3406-5064

●業務時間：午前10時～午後6時
●休業日：土曜・日曜・祝日・年末年始

■ 東京メトロ・銀座線／半蔵門線／千代田線
表参道駅B2出口より徒歩約5分
■ JR 渋谷駅東口より徒歩約10分

レイアウト・デザイン：光写真印刷株式会社

お知らせ

環境ボランティアで「COOL CHOICE」

気候変動対策および温室効果ガス削減をテーマにした新国民運動「COOL CHOICE」が始動しています。未来のために賢い選択をする暮らし、あなたはもう実践していますか。たとえば、企業・団体が実施する温暖化防止や生物多様性、環境教育等の環境活動に、ボランティアとして参加するのもCOOLな選択。そう思い立ったら、関東環境パートナーシップオフィス発行の「環境ボランティアなび2015」が参考になるはず。GEOCホームページからダウンロードしてみてください。



ボランティアマッチングの促進を目的に毎年発行している『環境ボランティアなび』

編集委員

星野 智子、平田 裕之、尾山 優子、江口 健介、藤原 祥子、今井 麻希子（順不同）

